

よいよい学校生活を求めて

言葉や聞こえなどに困り感のある子どもへの支援

作成：佐渡ことば・こころの教室



発音の誤りがある子どもへは…

- 正しく言うことができない発音については、指摘したり注意を与えたりするのはやめましょう。
- 言い直しをさせるのではなく、周りの人が正しい音を返してあげるかかわり方が大切です。
- 発音に注目するのではなく、おしゃべりできるように、よく話を聞いてあげましょう。

吃音のある子どもへは…

- 「ゆっくり」「落ち着いて」などの話し方への指示や注意はしないようにしましょう。
- 周りの大人がゆったりとした口調で話し掛けましょう。
- どのような話し方をしても、時には相づちを入れながら、最後まで話を聞きましょう。
- 同時に声を合わせると、楽に話せることがあります。

かん黙の子どもへは…

- 話すことにとらわれず、絵画や作文など、別の表現方法が豊かになるかかわり方を工夫しましょう。
- 子どもが感じている対象（人や場所、活動など）へのストレスの程度を見取りましょう。そして、ストレスの解消を目指し、焦らずじっくりとかかわりましょう。

難聴の子どもへは…

- 子どもの顔を見て、はっきりした口形で、ややゆっくりと話しましょう。
- 聞き取れなかった時は、子どもの様子に応じて、ほかの言葉に言い換えたり、字や絵にかいて伝えたりしましょう。
- 座席は、前から2、3列目がよく、聞こえのよい耳から教師の声が聞けるような配置がよいでしょう。
- 全体の前で話す時は、子どもに自分の顔を見せ、子どもの視線を確かめながら話しましょう。大切な指示は、板書などの視覚的な手掛かりを活用しましょう。

- 補聴器は、周りの音を聞こえやすくしてくれますが、雑音も大きくなります。精密機械で壊れやすく、大変高価なものです。むやみに触ったりすることがないような配慮が必要です。

学習面や行動面、対人関係に困り感のある子どもへの支援

子どもの**自己肯定感**を高める教師のかかわり



やる気を高めるかかわり

親しく声を掛ける
子どもの話に関心をもつ

できた！という成功体験

できることから始める
無理のない目標設定

自分ができる！という自信

当たり前のことのできたら褒める
認める

自分でも役に立つ！という体験

子どもに仕事を与え、感謝する

全体への対応

授業構成の工夫

- ・授業の流れを始めに示したり、短時間の活動を組み合わせた学習内容にしたりする。
- ・短時間での活動を工夫（クイズ形式の復習、フラッシュカードの活用）する。など

指示・説明・発問の工夫

- ・簡潔化（一文一動詞での言葉掛け）
- ・具体的で肯定的な表現（×走りません！ ○歩きます！）
- ・活動がイメージしやすい表現で伝える。
（「忍者歩きで移動」→廊下を静かに歩く）

板書と机間指導の工夫

- ・板書の構造化（黒板の分割、色分けや囲み線、小黒板の活用）
- ・机間指導での個別の言葉掛けやアイコンタクト、ハンドサインでの称賛 など

視覚情報や作業・動作の活用

- ・多用する指示を視覚化したカードで提示
- ・「見て→読んで→書く」活動の工夫
- ・余計な刺激のない教室環境 など

学習面での個別の配慮

指示が通らない

座席を配慮したり、モデルとなる子どもを近くの席にしたりします。

全体に伝えた後に個別に伝えます。

苦手な学習がある

取り組みやすい教材を用意します。

家庭学習をしない

保護者も交えて話し合い、取り組む量を調節します。

行動面での個別の配慮

急な変更に対応できない、勝手にこだわる

変更があることや思い通りにならないことがあることを事前に伝えます。少しでも対応できたら称賛します。

興奮してしまう

安全で静かなスペースを作り、落ち着くまでそこで過ごします。望ましい行動を称賛し、強化します。

多動である

荷物運びなど、教師の補助役にし、動く機会を作ります。

対人関係での個別の配慮

大声を出す、嫌がることを平気で言う

いけない理由をきちんと説明し、とるべき行動を教えます。絵や写真などを用いて振り返りをします。望ましい行動を称賛します。

友達とのトラブルをおこしやすい

集団行動に参加しない

ソーシャルスキルトレーニングで相手の思いや状況の理解を促します。様子を見て集団に誘います。部分的な参加を認めます。